

第 47 回 企業活性化研究分科会・議事録

<第 47 回 2012 年 3 月 24 日 (土) 時間：13：30～16：30 於：専修大学 (神田校舎) >

参加者：木村、小林、齋藤、柴山、菅原、杉本、宮川、山本
(8 名)

1. テーマ：再生企業の研究

- ・報告者：宮川 宏
- ・配布資料：9 枚
- ・報告内容の要旨

本報告は、SBI ネットシステムズ株式会社 (以下、同社) の粉飾や債務超過に陥った企業が、どのように再生したのか否かを検討するとともに、再生企業としての条件について、分析と報告したものである。

同社は 2003 年度と 2004 年度に、プロジェクト管理が不十分で新製品の市場投入が遅れたこと、大型案件の契約交渉の長期化により売上計上がずれこんだことによって 2 期連続の赤字決算となった。

同社の粉飾手法は、ソフトウェアの過大計上、架空売り上げ、貸倒引当金の過大計上等を利用したものであると指摘した。この点について収益性分析をおこない、ROA を構成する M と T、さらに売上高原価比率や売上総利益率などについて検討した。分析した結果、高いマージンを稼いでいても、人件費などコストがかかり、利益を生み出せていない状況であったと推察した。

最後に、本分析では、ターンアラウンドの先行研究をもとに、企業の倒産可能性の高い状況から復帰させるポイントに着目した。復帰ポイントについて、同社の状況を当てはめて検討した結果、同社が倒産可能性の高い状況からリバイバルするには製品としての魅力、収益性、そして成長性が揃う必要があると考察した。

2. テーマ：『"TURNAROUND:RETRENCHMENT AND RECOVERY" by D.KEITH ROBBINS and JOHN A.PEARCE II』についての検討

- ・報告者：杉本敦彦
- ・配布資料：6 枚
- ・報告者：柴山祥明
- ・配布資料：3 枚

<連絡事項>

第 49 回分科会 5 月 19 日

(文責：小林宗一郎)